【参考１】世界健康危機モニタリング委員会(GPMB)概要

設立背景

* 2014年の西アフリカでのエボラ出血熱流行を受け、国連事務総長の「健康危機に対する世界的な対応に関する国連ハイレベル・パネル（High-level Panel on the Global Response to Health Crises）」は、各国保健システムの強化、地域内調整、危機時の国連システム内調整、研究開発の促進、財政強化等の必要性に関する提言を行った。
* ハイレベル・パネルの提言の実施を支援・モニターするために、国連は「グローバル健康危機タスク・フォース（Global Health Crises Task Force）」を立ち上げた。タスク・フォースは、2016年7月～2017年7月に活動（日本からは尾身茂地域医療機能推進機構理事長が参加）し、国連システムの能力強化や、シミュレーションを通じた能力とプロセスの検証等に関する提言を行った。
* 「グローバル健康危機タスク・フォース」の後継として2018年にWHOと世銀により本委員会が立ち上げられた。

活動内容

世界全体の健康危機に対する準備・対応状況を報告するための独立した組織としてモニタリングや提言作成、政治的コミットメントなどを促す活動を行う。

構成員

* 事務局：WHO本部
* 共同議長：ハーレム・ブルトランド前ノルウェー総理／前WHO事務局長

エルハッジ・アマドゥ・シィ国際赤十字・赤新月社連盟（IFRC）事務総長

* 構成員：

ビクター・ヨセフ・ザウ：米国国立科学アカデミー会長

クリストファー・イアイアス：ビル＆メリンダ・ゲイツ財団　国際開発会長

ジェレミー・ジェームズ・ファラー：英国ウェルカム　トラスト　ディレクター

ヘンリエッタ・フォア：国連児童基金業務執取締役

ダイアナ・ガスンバ：ルワンダ　保健大臣

ジョージ・フー・ガオ：中国　共和国疾病対策予防センター　事務局長

イロナ・キックブッシュ：スイス　国際開発研究大学院　教授

クリシナスワミー・ビージェイ・ラグハバン：インド　主任科学アドバイザー

ヴェロニカ・スクヴォルトワ：ロシア　保健大臣

鈴木康裕：厚生労働省　医務技監

ジャネット・ベガ・モラルズ：チリ　国立健康技術開発局長